

“ニッセイ高尾の森”の魅力

東京都多摩教育事務所指導課 学校教育指導専門員 富田 広

東京都八王子市にある高尾山(599m)は都心から近く、交通の便が良いことから、家族連れや遠足で来た小中学生で毎日、賑わっています。最近ではミシュランでも紹介され、外国人観光客も多く訪れる山です。



【登山客で賑わう高尾山の山頂】

高尾山は九州から広がる暖温帯（暖かい地域）に生息するシイ類、カシ類、タブ、クスノキなどの常緑広葉樹からなる森と東北地方から広がる冷温帯（やや気温の低い地域）に生息するクヌギ、コナラ、ミズナラ、ブナなどの落葉広葉樹林からなる森との境に位置しています。そのおかげで暖温帯と冷温帯の両者の植物が混在する豊かな自然環境となっています。

そんな高尾山の北隣に北条氏が築城した城跡が残る城山（八王子城址：446m）があります。

“ニッセイ高尾の森”はその城山の北斜面の国有林内にあります。高尾山と同じように暖温帯の植物と冷温帯の植物が混在する地域ですからこの森とその周辺には豊かな自然環境が残されています。現在、森の中、及び、森に至る滝ノ沢林道では多くの樹木や草花を「植物名プレート」で紹介しています。多くの方々から植物観察を通じて、自然を学び、森に親しむ場として“ニッセイ高尾の森”を活用してくださることを願っています。



【ニッセイ高尾の森入り口】

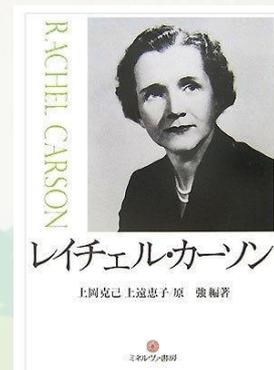
I 感性を研ぎ澄まそう

“ニッセイ高尾の森”やその周辺の林道を散策すると、頭上や足下に多くの植物が色とりどりに花を咲かせています。また、鳥や虫たちの鳴き声もたくさん聞こえてきます。さらに、木々の間を抜ける風の音や梢の重なる音も加わり、森全体で音楽を奏でているようです。

是非、今までの体験を呼び戻し、身体全体で自然を受け止める感性を大切にしてください。そのような感性を研ぎ澄ますことは自然を知る近道になります。

「沈黙の春」の著者として知られているレーチェル・カーソンは「センス・オブ・ワンダー」の文中で「美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れたときの感覚、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたび呼び覚まされると次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身につきます。(レーチェル・カーソンの世界：かもかわCブックス：上遠恵子著)」

と語っています。“ニッセイ高尾の森”はそんな感性を活かしながら自然の不可思議さを学ぶ場になっています。



【レーチェル・カーソン：ミネルヴァ書房】

II “ニッセイ高尾の森”の植物

“ニッセイ高尾の森”は八王子城址のある城山の北斜面の標高 366m から城山の尾根にかけて広がっています。その広さは 3.36ha になります。この森はスギ、ヒノキの植林地にカツラ、ヤマザクラなどが植林され、ケヤキ、イヌザクラ、カスミザクラ、イイギリ、イロハカエデ、イタヤカエデ、チドリノキ、ミズキ、エノキ、オニグルミ、



【林床に光が届く“ニッセイ高尾の森”】

ホウノキ等の落葉樹とアラカシ、シラカシ、シロダモ、モミ等の常緑樹が混在しています。春はヤマザクラのピンク色とイヌザクラの房状の白い花が目立ち、秋にはカエデの仲間の紅葉にカツラの落ち葉の甘辛い醤油の香りが森を包みます。

尾根の近くは間伐が済んでいませんが、標高の低い場所ではスギ林の間伐が進み、明るい森の印象を受けます。特に落葉樹の散在する場所では明るい林床（林の中の地面）をつくり、アケボノスミレやアオイスミレ、エイザンスミレ、ナガバノスミレサイシン、マルバスミレ等のスミレの仲間やクワガタソウ、エンレイソウ等の貴重な草本類も観察できます。また、スギ林の縁付近では半日陰を好むコクサギが林床を優先的に被いアブラチャンやタマアジサイ等が目立ちます。草本ではヨゴレネコノメソウやヤマネコノメソウ、ハシリドコロの群落等も観察できます。なお、ツル植物としては、キジョランやツルマサキ、テイカカズラが樹木にからみついています。キジョランはアサギマ



【杉林の縁に咲くアケボノスミレ】



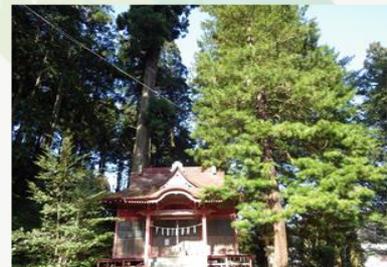
【林床に咲くエイザンスミレ】

ダラの食草にもなるので、周囲ではアサギマダラがゆったりと飛んでいる姿をよく見かけます。また、エノキの大木にからんだ太いツルマサキは存在感があり、この森のシンボルとなっています。

落葉樹と常緑樹の混在した“ニッセイ高尾の森”は林床も明るく、植物名プレートを活用して多様な樹木や草花が観察できます。また、多くの野鳥や昆虫、そしてニホンザル、タヌキ等にも出会える森です。憩いの場として、また、「生物多様性」を学ぶ場としての森の活用が期待できます。

Ⅲ 滝ノ沢林道

“ニッセイ高尾の森”に至る林道を滝ノ沢林道と呼びます。林道入り口の手前には「松嶽稲荷神社」があります。社の裏の杉林は間伐が進み林床は明るく、貴重な植物のヤマブキソウやラショウモンカズラ等が観察できます。また、スギの大木にはムササビが棲んでいます。ムササビを脅かさないようにスギの幹の巣穴を観察してみましょう。



【ムササビの棲む松嶽稲荷神社】

滝ノ沢林道には平行して幾つもの古い山道跡が残っています。これらの古道は八王子城址へ北側から通じる道で、林道の西側の尾根の古道には「見張り台」があったそうです。“ニッセイ高尾の森”の中にも、森中央を水平に東西に横切る古道があったとされていますから、この地域は甲冑を被った武者達が行き交った場所なのです。



【神社の杉林に咲くヤマブキソウの群落】

この林道は周囲をスギ林やヒノキ林に囲まれています。林の縁にはヤマザクラやイイギリ、カラスザンショウ、コナラ、フサザクラ、エンコウカエデ、ウワミズザクラ等の落葉樹が茂り、陽当たりのよい林道になっています。春の道端には陽当たりを好むバラ科のヤマブキやクサイチゴ、ニガイチゴ、タチツボスミレやナガバノスミレサイシン等のスミレの仲間が目立ちます。初夏からはウツギやガマズミ、サルナシ、タマアアジサイ、オカトラノオウの花が咲き、セミ時雨の中、足下には虫の卵を葉で丸く包んだオトシブミが落ちています。秋にはサラシナショウマやオミナエシの花にツタウルシやイタヤカエデ



【林道に初夏を呼ぶウツギの花】



【果実が美味しいサルナシの花】

の紅葉が山道を飾ります。また、キウイに似たサルナシの実やマタタビ、アケビ、ヤマグリ、オニグルミの実も採集できますが、これらは動物たちの貴重な食糧となります。少し食べて、残りは山の動物たちに分けてあげましょう。この林道にも植物名プレートがあります。植物名を覚えながら滝ノ沢林道の自然を楽しんで下さい。



【ツタウルシの紅葉】

ところで、高尾山や城山を造る地層は白亜期に海底に溜まった泥や砂が岩になった粘板岩と砂岩、僅かなチャート（放散虫や珪藻の死骸が沈殿してできた硬い岩）や輝緑凝灰岩（緑色の海底火山の噴出物でできた岩）が層状に堆積した小仏層からできています。地層が周囲から押されて折り曲がる褶曲に伴う土地の隆起で大きな圧力を受けたため、小仏層の粘板岩や砂岩は崩れやすく、林道の所々の斜面が崩れています。注意して観察すると地層は水平ではなく、70～80度に立った状態なのが分かります。滝ノ沢林道は大地の大きな動きも感じられる場所なのです。

IV 自然保護を考える

“ニッセイ高尾の森”はその森だけが貴重なものではありません。森の自然環境は周囲の自然とつながっています。森へ通じる滝ノ沢林道の自然やその麓にあるムササビが棲む神社の境内の自然と森とは連続的につながっているのです。また、森の上の尾根を辿れば影信山を経て高尾山ともつながっています。

歴史的にも山頂の八王子城主となった北条氏照は高尾山を崇信して寺領を寄進し、竹木材伐採禁止令を出して高尾山の森林の保護に努めたことが知られています。その八王子城へ通じる古道が森の中や周辺の尾根に伸びています。今でも地域の住民は八王子城を造った北条氏を敬い、その関係を大切にしています。北条氏を偲んで毎年春に催される奉納武者行列の祭りは地元住民と北条氏とのつながりの深さを物語っています。城山の北斜面に位置する“ニッセイ高尾の森”は自然の他にも歴史や文化、そしてそこに暮らす人々とも深いつながりがあるのです。



【八王子城址にある八幡神社】

“ニッセイ高尾の森”は落葉樹と常緑樹からなる森で豊かな植相を示しています。今後も間伐や下草狩りなどの人為的作業を継続することで森の自然は保てることと思います。しかし、隣接する森が荒れてしまえば、その悪影響を必ず受けてしまいます。森の自然が周囲の自然環境とつながっていることから考えれ

ば、麓の住宅街にムササビが棲む環境が残されているからこそ、林道周辺の自然も守られ、この森まで連続的に守られているのです。

守りたい森だけを守ろうとしても、その森とつながる周辺の自然を守らなくては効果が期待できません。“ニッセイ高尾の森”を守るには滝ノ沢林道や麓の市街地の自然、そして城山の歴史や文化と人々との関わりのなかで、“城山”を包括的に俯瞰しながら守ることが大切です。



【滝ノ沢林道の植物名プレート】

今回、多くの方々の協力を得て、“ニッセイ高尾の森”とそこへつながる滝ノ沢林道に「植物名プレート」を掲示できました。この活動が周辺地域に広がり、城山や高尾山の自然を守ることの起点になることを願っています。